

南アフリカ為替週報

2022年4月7日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去2週間の動き＞

(3月24日～4月6日)

USD/ZAR: 14.4100～14.7950

ZAR/JPY: 8.20～8.61 (参照値)

過去2週間の南ア・ランド相場は、高止まりと言える堅調推移ではあったものの、特に対ドルでは細かい上下動を繰り返し、この間を振り返っての上昇幅は僅かにとどまった。この間のランドの値動きを作ったのは、ほとんどが、各国中銀の金融政策動向だった。24日、まず、南ア準備銀が政策金利を引き上げ。+25b.p.は市場の予想通りだったものの、その票読みが大きく鷹派方向に振れた(注1)ことがなどが驚きを誘い、ランド押し上げに寄与した。28日の値動きは円の乱高下(急落/急反発)と言え、同日、日銀が1日に2度の指値オペ(債券購入＝金利抑制策)を実施したことが円急落を招いた。同局面の円急落で、一時、ランド/円は46ヵ月ぶりの高値を更新する急騰を見せた。対ドルで122円台前半から一気に125円台まで急落した円は、その後急反発、翌29日には、一時、121円台まで反発した。その後の断続的なランド下押しはドル高の裏返し。31日の米政府による戦略的石油備蓄放出発表(6ヵ月間/1日100万バレル)を受けた原油反落(注2)や1日発表された米2月雇用統計の堅調などがドル買い材料視された。更に5日、米連銀のブレイナード理事が同銀バランスシートの縮小(QT)を(市場の織り込み以上に)加速させる可能性に言及。どちらかと言えば鳩派寄りと言われていた同理事から、積極的な金融引き締めを示唆する発言が聞かれたことで、米長期金利が上昇、ドルの続騰を招いた。他に南ア固有の要因では、31日発表された南ア2月貿易収支が市場予想を大幅に下振れたことが、相応のランド下押しを誘った他、1日に大手格付け会社の一部が南ア国債の格付け見通しを「格下げ方向」から「安定的」に引き上げたりもしたが、南ア政治/経済に対するランドの関心は総じて低かった。

＜過去2週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/24	13:12	南ア準備銀政策金利		4.25%	4.25%	4.00%
3/29	9:30	失業率	Q4	35.3%	35.1%	34.9%
3/30	6:00	民間部門信用(前年比)	2月	+3.62%	+3.30%	+3.11%r
	12:00	財政収支(ZAR)	2月	-3.4bn	-0.6bn	-65.9bn
3/31	12:00	貿易収支(ZAR)	2月	+10.6bn	+21.9bn	+3.6bn
4/1	11:26	自動車販売統計(前年比)	3月	+16.5%	+4.1%	+18.4%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(4月7日～4月13日)

USD/ZAR: 14.500～14.800

ZAR/JPY: 8.30～8.50

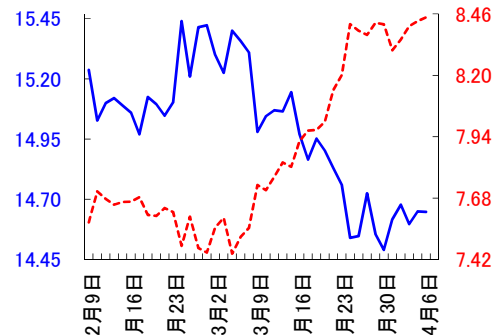
向こう1週間の南ア・ランド相場は、足元堅調推移の継続を中心に予想。ただし、ランド/円が46ヵ月ぶりの高値を更新した直後で、ランド高に相応の達成感も出ており、ぐいぐい水準を切り上げるようなランド続騰は見込み難いのではないかと。ランド大幅高が見込み難いのは、上述の通り、ランドに対する市場の関心が低いから。実のところ、この間、南ア政治/経済では、ラマポーザ大統領による、ゾンド副主席判事(注3)の主席判事指名(3月11日)、周波数帯入札の成功(3月17日)、与党アフリカ民族会議(ANC)の全国執行委員会(NEC)において、同委員会各種小委員会の委員長指名にラマポーザ大統領の意向が大きく反映されたこと(3月25日)など、前向きに評価できる出来事が相次いだ。とりわけ、今後を見据える上で大いに注目されるゾンド報告書の対処案発表(6月)とラマポーザ大統領による党内人事判断やANC党首選(12月)などを控えて、一連の出来事はもっと好意的に評価されても良かったように思われるが、ここまで、ランドの上げ足は鈍いように見える。見方を変えれば、好意的に評価されているからこそ、米連銀の金融引き締め観測が強まる局面で、(ランドが)堅調を維持しているのかもしれないが、だとしても、足元までのドルとランドの力関係が、早晩大きく変わる展開は見込み薄ということになる。

＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
4/7	6:00	総外貨準備高(USD)	3月			57.69bn
4/8	9:30	企業景況感指数	3月			
4/11	11:00	製造業生産(前年比)	2月			+2.9%
4/13	11:00	小売売上高(前年比)	2月			+7.7%

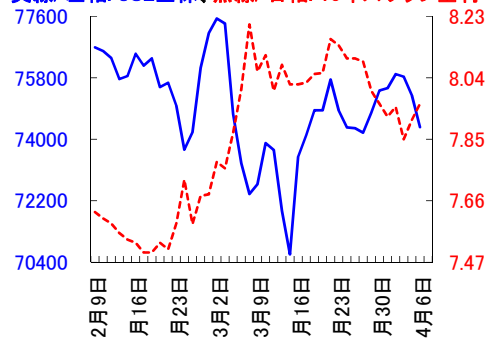
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		4.00%
長期金利(10年スワップ)	4月6日	7.960%
株価指数(JSE全株)	4月6日	74359.03
成長率(GDP/前年比)	Q4	+1.7%
経常収支(ZAR)	Q4	+120bn
失業率	Q4	35.3%
消費者物価(前年比)	2月	+5.7%
小売売上高(前年比)	1月	+7.7%
製造業生産(前年比)	1月	+2.9%
鉱業生産(前年比)	1月	-0.1%
貿易収支(ZAR)	2月	+10.6bn
金価格(ロンドン17:00)	4月6日	1928.00

(注1) 前回(1月27日)の4(+25b.p.)対1(据え置き)から、3(+25b.p.)対2(+50b.p.)に

(注2) ドルで建値される原油の下落はドル高でもある

(注3) ズマ大統領一派による「国家の収奪」疑惑を摘発する報告書の主筆

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。